

■**渋江抽斎**　漢方医，書誌学者，蔵書家。森鴎外が購入した古本で度々印を眼にして，その評伝を書き，名が残る。  
しぶえちゅうさい  
青洲麻酔手術1805＝　江戸神田の弁慶橋で，大田原藩分家の家臣を祖とし，代々弘前藩主の侍医を務める渋江家に養子で入った允成(4世道陸)の子に生まれる。母は佐倉藩主家臣の娘縫。小字は恒吉。3つ上に姉須磨がいた。

♫**シジ船狼藉**・1807＝2歳：既に300石15人扶持だった父が，5人扶持を加えられる。  
藩の江戸屋敷で，前々藩主津軽信寧の末亡人真寿院に可愛がられ，ほとんど毎日傍で過しながら育ち，

浮世風呂・1809＝4歳：**考証学者市野迷庵**に入門して，**經学**を学び始める。

ゴロブニ**ン拿捕**1811＝6歳：妹が誕生するも，直後に死去。父はさらに5人扶持を加えられる。

黒住教・・・1814＝**9歳**：**父が津軽家秘伝の“一粒金丹”の調製を許され，月100両以上の所得になる。初めて藩主にお目見え。医学修得のため，伊沢蘭軒に師事，**

杉田玄白没・1817＝12歳：**森枳園と運命的な出会い，枳園自身が弟子入りと捉えているように，生涯にわたって氣を使う。**  
**水野忠成老中**1818＝13歳：  
群書類従完結1819＝14歳：姉須磨が留守居年寄組の藩士と結婚，

蝦夷地直轄終1821＝16歳：**月次出仕を命じられ，**  
膝栗毛終・・・1822＝17歳：**\*御番見習，表医者**を命じられてまもなく，父が致仕して家督を相続，**“一粒金丹”の製法も伝授された。この年から日記を付け始める。**

ｼｰﾎﾞﾝ**朴来日**・1823＝**18歳**：下野国の浪人の娘定と，佐倉藩主家臣の娘という形で，結婚。  
ｼｰﾎﾞﾝ**朴鳴滝塾**1824＝19歳：森枳園は直接伊沢蘭軒に師事するようになる。母は剃髪して寿松と称する。  
異国船打払令1825＝20歳：藩主寧親が隠居し，信順が新藩主になる。元柳原の家が類焼。  
・・・1826＝21歳：姉須磨が死去。長男恒善が誕生。**市野迷庵が死去して後は，狩谷掖斎に師事。**  
ｼｰﾎﾞﾝ**朴迫放**・1829＝24歳：師伊沢蘭軒が死去。母が死去。妻を離別し，藩の要人比良野氏の娘威能と再婚。小説「呂后千夫」。  
**谷文晁について絵も嗜むが，それ以上に，劇通貴志屋五郎作らと親交，角兵衛獅子には，何をさておいても玄関に出るといった風流ぶり。**

富嶽三十六景1831＝26歳：父が出羽国亀田城主に嫁いだ藩主信順の妹に伺候，信順の室付きも兼ね，隠居料3人扶持。長女純が誕生するも，妻が死去。蘭軒門下の縁で，備後国福山藩主の医官の娘徳と再々婚するが，父となじまず苦勞。**痘科について，池田京水に学び，京水の説を筆録した「護痘要法」が刊行される。**

鼠小僧磔・・・1832＝**27歳**：藩主信順に従い，初めて弘前に赴き，  
天保大飢饉始1833＝28歳：前藩主寧親が死去。父は2人扶持加増。藩主に従い，江戸に戻る。  
高島砲術・・・1834＝29歳：次男優善が誕生。師狩谷掖斎が死去。  
滑稽+人情本1835＝30歳：  
・・・1836＝31歳：師池田京水が死去。**近習詰に進む。**  
**大塩平八郎乱**1837＝32歳：父允成が死去。長男恒善が藩主に初めてお目見え。森枳園が俳優に伍して舞台に登場したことが罪となって，阿部家の禄を失い，一家で夜逃げする事件。藩主信順に従い，弘前に赴き，2冬過すことになったため，防寒と寂しさを紛らわすため，初めて酒を飲み，獣肉を食べようになる。煙草は生涯一切やらず。

蛮社の獄・・・1839＝34歳：藩主信順に従い，江戸に戻る。藩主信順は遊蕩にうつつをぬかして来て，家臣が身をもって諫めるのも聞かず，藩の財政危機を招くなどしたため，ついに幕命で強制隠居となり，順承が跡を継ぐことになる。

勧進帳初演・1840＝35歳：師谷文晁が死去。  
**天保改革始**・1841＝**36歳**：次女徳が誕生するも，夭折。  
天保改革弾圧1842＝37歳：三男八三郎が誕生するも，夭折。  
順天堂始・・・1843＝38歳：**近習に進む。この年，幕府が医学館に講師を置いて，陪臣町医の来聴を許す制度ができると，**  
天保改革終・1844＝39歳：長女が幕旦と結婚。妻徳が死去，父の友人だった神田の鉄物問屋の娘五百を妻に迎える。**\*幕府から医学館講師を命じられて，直参となり，出費が一気に増えるが，藤堂家にも仕えた経験ある4度目の妻が対処，**

**阿部正弘首座**1845＝40歳：三女棠が誕生。  
孝明天皇・・・1846＝41歳：四男幻香は死産，  
・・・1847＝42歳：四女陸(後の杵屋勝久)が誕生。  
・・・1848＝43歳：枳園が躋寿館に召され，ようやく帰参。長男恒善が月次出仕を命じられる。**師貴志屋五郎作が死去し，三世劇神仙となる。オランダ嫌いだったが，安積良斎がこの年に書いた「洋外紀略」により忽然と悟る。**

北斎没・・・1849＝44歳：五女癸巳が誕生。長男が初めて勤仕。**\*老中牧野忠雅の呼び出されて登城，学業出精につき，節目見を許され，將軍家慶に謁見。異例の出世となり，ついに，自らが蒐集に励んできた[武鑑]に載せられる身分に至るが，元来，藩士を幕府に出すことを好まない弘前藩にあっては，賀する者は皆無であった。一方，盛宴を張らねばならず，顔色無かったところ，妻が質屋と交渉してくれ切り抜ける。**

国定忠治磔・1850＝**45歳**：結婚していた長女が死去。妻の父も死去。幕府から15人扶持。  
尊徳報徳論・1851＝46歳：三女が痘瘡で死去。本所に転居し，神田の家を別邸とする。  
**万次郎帰国**・1852＝47歳：長男が結婚。  
**ペリー来航**・1853＝48歳：六女水木が誕生。  
開国開港・・・1854＝49歳：五男専六(のち脩)が誕生。長男が発病し死去。躋寿館講師の故をもって，5人扶持が贈与され，且つ年末ごとに賞銀5両が与えらる。**円融天皇時に丹波康頼が撰し，その後行方不明になっていた「医心方」が出現したことから，その校刻のため，躋寿館医書影刻手伝に任じられる。枳園も躋寿館講師になった。**

安政大地震・1855＝50歳：六男翠暫が誕生。自宅に，放蕩修まらず失踪中の次男優善を閉じ込めるべく座敷牢を作ったが，大地震で，その前に置いてあった本箱が倒れ，夫婦とも動けなくなって，救出されると，ただちに前藩主信順を慰問し，留守居比良野氏と救恤について協議。**開国が迫られるなど天下多事に，藩士の側近を介し，長年の学問を通じて得た知識等を駆使した労作をもって，諸策を進言。自宅は全壊し，庭に小屋掛けして凌ぐ。**

松下村塾・・・1856＝51歳：**藩主と幹部のほかは，家族もろとも津軽へ帰すべきであると建言して，比良野氏と一時絶交。次男優善が表医者**を罷免されたのに連座して閉門3日。勤王の志から，ある皇族女性が窮乏しているとの言に惑わされて，詐欺に引っ掛かりそうになり，妻の機転に救われる。森枳園との共著「経緯訪古志」は，我国における中国古書の解題中，最も完備したものと言われ，続く「留真譜」とともに，のちに，清国で出版された。

蕃書調所・・・1857＝52歳：七男成善(のち保)が誕生。  
五ヶ国条約・1858＝53歳：七女幸が誕生。七男成善が藩主順承にお目見え，自分は**\*隠居して著述に専念しようと考えたが，まもなく流行中のコレラに罹り，まだ1歳の成善を嗣子と定め，蘭学・医学を学ばせるように遺言して，没した。死の直前まで27年間つけ続けた日記が遺された。**

無類の蔵書家で3万5千部あると言われ，そのすべてを点校，一たび口を開くや，人々はその学問の精博さに驚かされたと言う。医学書としては「素問識小」「素問校異」「靈枢講義」，手沢本としては「老子」「難經」，ほかに「抽斎吟稿」「晏子春秋筆録」「劇神仙話」など，長唄の作品「四つの海」もある。